

公益社団法人日本放射線腫瘍学会  
2023年度（2023年9月1日～2024年8月31日）事業報告

1. 学会等の学術的会合の開催及び学術研究の支援

- 第36回学術大会を2023年11月30日～12月2日、パシフィコ横浜ノース(横浜市)にて開催し、2023年12月20日～2024年2月29日までオンデマンド配信を行った。第36回学術大会報文集を発行した。
- 小線源治療部会学術大会(2024年5月24～25日)、生物部会学術大会(2024年5月17～18日)、高精度放射線外部照射部会学術大会(2024年3月2日)を開催した。
- 優れた学術研究計画の選出を行い、その研究支援および論文投稿の助成を行った。
- 国際交流
  - ・欧州放射線腫瘍学会(ESTRO)においてブースの出展および代表者の派遣を行った(2024年5月3～7日)。またESTROとのMOUに基づき、第37回JASTRO学術大会におけるJASTRO-ESTROジョイントシンポジウムの準備を行った。
  - ・米国放射線腫瘍学会(ASTRO)と新規MOU締結を行い、これに基づきASTROでのJASTRO-ASTROジョイントシンポジウム(2024年9月30日)の開催準備を行った。
  - ・アジア放射線腫瘍学連盟(FARO)へ役員等の推薦を行い、各種活動支援を行った。また、第3回Joint FARO-ESTRO Congress @ ESTRO meets Asia 2024(2024年8月23～25日)に代表を派遣し、JASTRO展示ブースを設置した。
  - ・第9回台湾-日本放射線腫瘍学シンポジウムを札幌にて開催した(2024年8月17～18日)。
- 放射線医学・治療の学術・医療技術の相互理解を深めるため、日本放射線影響学会、日本核医学会、日本緩和医療学会等において合同シンポジウムを共催した。
- がん放射線治療看護セミナー等の放射線治療に関連するセミナー開催の支援を行った。

2. 学会誌等の刊行

- 機関誌(英文の研究論文集)を年度内計6巻オンラインにて発刊した。
- 世界に向けて広く発信する英文機関誌の普及・向上を目的として、Highly Cited Award、優秀査読者賞、JRR誌優秀論文賞の顕彰事業を行った。
- 学会広報誌「ニューズレター」を4回刊行し、論文紹介「Journal club」10編を配信した。

3. がん等の放射線治療についての普及、啓発活動

- 放射線治療についての一般市民・患者さんへの理解・普及を目的とした「市民公開講座」を学術大会時(2023年12月2日横浜)、及び、東京会場+オンラインにて(2024年7月13日)開催した(オンデマンド配信中)。また、リーフレット配布、及び、一般・患者さん向け書籍「粒子線治療がしっかりわかる本」の発刊を行った。また、放射線治療を題材とした漫画作品のプレコンテストを実施し、受賞作品に放射線治療用語解説を加えた漫画冊子体

の作成・配布を行った。

- がん放射線治療の最新情報の発信・広報活動として、マスコミ向けプレスカンファレンスを行った。
- 医学生・研修医向けに放射線腫瘍学講座の紹介等広報活動（動画作成）を行った。また、医学生・研修医のための放射線治療セミナー（オンライン：2024年5月18日、東京：7月6日、大阪：7月26日）を開催した。
- 研究者等の奨励を目的として、阿部賞・梅垣賞の顕彰事業を行った。
- 地域等の放射線治療の進展を目的として、地域貢献賞の顕彰事業を行った。
- 優れた学術研究課題に対して、必要資金の一部を助成した。
- 放射線治療における優れた研究成果を広く還元することを目的として、関連する他領域の学術団体での発表を支援し助成した。
- 放射線治療の医師・メディカルスタッフへの海外研修助成事業の公募を行った。

#### 4. がん等の放射線治療の標準化に資する事業

- 放射線治療従事者への教育を目的として、教育講演を行い、講義コンテンツを掲載した。
- 専門性に特化した教育的事業として放射線生物学セミナー（2024年3月16日）、放射線治療・物理学セミナー（2024年7月13日）、若手医師の教育を目的として放射線腫瘍学夏季セミナー（2024年8月3～4日）を行った。国際レベルの放射線治療標準化を目的に、日本で教育セミナー“ESTRO SCHOOL”（2024年6月21～23日）をESTROと共催した。
- 細胞・分子レベルの放射線治療標準化を目的として、第5回放射性同位元素内用療法セミナー（2024年3月9日）を実施し、転移性脊椎腫瘍に対する体幹部定位放射線治療促進事業として第1回脊椎 SBRT ハンズオンセミナー（2024年6月2日）を開催した。
- 小線源治療の普及および技術向上のため、第2回小線源治療ハンズオンセミナー（2023年10月14日）を開催した。
- MR画像誘導即時適応放射線治療に関する人材育成、研究推進のため第3回MR画像誘導適応放射線治療研究会（2024年7月6日）を開催した。
- 粒子線治療に関する先進医療会議資料（エビデンス・評価解析）を作成・提出を行った。臓器別WGにて臨床研究を推進し、保険適用となった疾患別統一治療方針を提示した。
- 安全で適切な放射線治療を提供するため「放射線治療における第三者機関による出力線量測定および評価に関するガイドライン 2023」、「強度変調放射線治療（IMRT）臨床的ガイドライン 2024」を作成し、「放射線治療計画ガイドライン 2024」出版の最終準備を行なった。「緩和的放射線治療診療ガイドライン」、「密封小線源を用いたハイブリッドアプリータによる加速乳房部分照射ガイドライン」、「顎骨壊死診療ガイドライン」の発刊準備に着手した。関連学会各種ガイドラインの作成のため委員派遣、及び査読・外部評価を行った。
- WEB用語集・略語集の改訂作業および用語集・略語集への意見公募を行った。

- 放射線治療専門医認定
  - ・2024年放射線治療専門医の資格更新ならびに認定作業を行った。
  - ・第1回日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験の実施ならびに認定作業を行った。
- 放射線治療施設の実態と個々の治療症例の診療内容を調査することを目的として、全国放射線治療実態調査（症例登録）を行った。また定期構造調査2021年（速報）を公開した。
- RI内用療法症例実態把握のための症例データベースの構築を行った。
- 第三者出力線量評価認定施設および第三者出力線量評価認定機関  
放射線治療の品質の担保および治療成績の施設間差の最小化を目的として、定める基準を満たす施設の認定を行った。
- 日本放射線腫瘍学会認定施設  
安全かつ高精度な放射線治療を推進することを目的として、定める基準を満たす施設の認定を行った。
- 放射線治療品質保証・医療安全のQIを用いたWEB解析システムによる「がん診療連携拠点病院対象2020-2021年度調査」の報告を行った。
- 令和6年度（2024年）診療報酬改定に関わる諸作業を行い、医療技術提案書を提出した。
- IMRT/SBRT実態調査を行い、様々な医療技術について費用対効果分析の研究を進めた。
- 適切な放射線治療の提供体制の検討と提言を行うため、厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制構築に資する研究」研究支援を行った。
- 物理技術専門職関連団体参画による治療計画業務補助者のための教育・研修用コンテンツの企画・作成に協力した。
- 「がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究」の研究支援を行い、がん治療における緩和的放射線治療の評価と普及啓発のための研究を実施した。また、出血性胃がん、骨転移に対する緩和的放射線治療について医療経済評価研究を進めた。
- 医学部における放射線治療教育のための講義資料「放射線治療学・基礎編」を作成した。
- 放射線治療領域におけるAI-研究用データベースシステムを構築した。

## 5. その他当法人の目的を達成するために必要な事業

- 代議員増員に伴い、一般枠代議員の他ダイバーシティ枠として、「女性枠」「物理・技術枠」の設置を行った。また定款の範囲内で立候補による理事の増員（15名→17名）を整備した。
- 国内・国外の宿泊費の高騰にあわせて「出張・旅費規程」の改訂を行った。

## 2023年度(2023年9月1日～2024年8月31日)各事業(委員会/部会)活動報告

### 【事業部門】

#### ■ 編集委員会(委員長:佐々木 良平)

- Journal Radiation Research 誌(以下 JRR 誌)を以下の通り刊行した。  
2023年 Volume64(5)～Volume64(6)、2024年 Volume65(1)～Volume65(4)の計6巻を刊行した。
- JRR 誌の2023年の採択率は31%(腫瘍学関係26%、生物学・物理学関係37%)であった。  
2022年の採択率は30%(腫瘍学関係25%、生物学・物理学関係35%)
- 2023年はOncology分野として、174編の査読を行った。
- JRR 誌のインパクトファクターは1.9(2023年)となった(2022年2.0)。尚5年のインパクトファクターは2.0である。  
・IF 順位 52位/109誌<分野: Biology> ・IF 順位 109位/204誌<分野: Radiology, Nuclear Medicine & Medical Imaging> ・IF 順位 234位/322誌<分野: Oncology>
- ※2023年 Impact Factor の発表から、従来の SCIE 掲載誌に加え、ESCI、SCIE 掲載誌も集計に加わったため、各カテゴリーの順位のジャーナル数が大幅に増加した。従来の SCIE 掲載誌での順位は、2022年 IF の順位より4～8位上昇した。
- JRR 誌の「2024年 Highly Cited Award」(1名)と「2024年優秀査読者賞」(3名)を選出し、理事会へ上申した。
- 昨年度より新設した「2024年 JRR 誌優秀論文賞」の公募を実施し、2名を推薦・理事会へ上申し、選出した。また「JRR 誌優秀論文賞」の内規について、目的条項の文言表現や、「対象」に関する記載等の改訂を検討し、理事会へ上申した。
- JRR 誌の寺島論文賞を選出した。

#### ■ 広報委員会(委員長:岡嶋 馨)

- Newsletter 通巻149-152号(2023年 No. 3～2024年 No. 2)を発刊した。(学会会員専用HPにも掲載)
- Journal club No. 270～No. 279を配信するとともに、当会ホームページ・Newsletterに掲載した。
- JASTRO gram No. 1377～No. 1432を配信した。
- 2023年9月22日、東京にて、プレスカンファレンス2023(テーマ:進化を続ける放射線治療-さらなる機能温存と適応拡大)を開催した。また、プレスカンファレンス2024開催(2024年9月19日)の準備を行なった。
- 患者さん・一般向けパンフレット「放射線治療を受けられる方へ」、「がんは放射線治療の時代へ」を広く配布した。
- 前年度に編集の、一般・患者さん向け書籍「粒子線治療がしっかりわかる本」(広報委員会/粒子線治療委員会編著)を発刊した。(2023年9月15日)
- 特定資金「放射線治療PR事業(1)」として、当会会員から公募した放射線治療を題材としたシナリオを用いて、漫画専門学校生を対象に、コンテストを実施し、33作品から2作品を採択した(2023年12月)。これらの漫画作品集に用語解説をつけて、漫画冊子体「だから私たちは、放射線治療を選んだ～」

その時のための、知っておきたい治療のこと〜」を作成し（一般用 HP に掲載中）、会員（JASTRO 認定施設、賛助会員）や市民公開講座、プレスカンファレンス参加者に配布した。

- ▶ 特定資金「放射線治療 PR 事業(2)」として、2024 年 7 月 13 日市民公開講座を開催した。放射線治療経験者の女優の体験談を中心に、食道がんに対する放射線治療をテーマに講演を行い（現地参加 46 名、オンライン参加 266 名）、講演動画を学会 HP（YouTube）に UP した（約 1 年間配信予定）。同時に本講座への登録者を対象に「放射線治療 PR 事業(4)」一般市民向けアンケート調査を行い、結果の Newsletter への掲載準備を行った。
- ▶ 「放射線治療 PR 事業(3)」として、がん放射線治療推進委員会と共同で学生・研修医向け新動画を 3 編作成、旧作 2 編の更新を行った。
- ▶ 「患者さんと家族のための放射線治療 Q&A 2020 年度版」の改訂版の出版準備を行った。

#### ■ 教育委員会（委員長：内田 伸恵）

- ▶ 2023 年 11 月 11 日（参加者 512 名）、2024 年 6 月 1 日（参加者 660 名）にがん放射線治療看護セミナーを WEB と現地のハイブリッドにて日本がん看護学会と共催した。（オンデマンド配信あり）
- ▶ 第 36 回 JASTRO 学術大会にて教育講演を行った[2023 年 11 月 30～12 月 2 日パシフィコ横浜ノース/オンデマンド配信あり]。
- ▶ 2023 年 11 月 30 日、2024 年 4 月 13 日教育委員会を開催した。
- ▶ 第 14 回放射線生物学セミナーを生物部会と共催にて、ハイブリット開催した[2024 年 3 月 16 日/テーマ：がん微小環境と放射線治療/稲波 修世話人(北海道大学)/北海道大学大学院獣医学研究院 大講堂/参加者 162 名（有料 123 名）/後日オンデマンド配信あり]。
- ▶ 第 12 回放射線治療・物理学セミナーをオンライン開催した[2024 年 7 月 13 日/松浦 妙子世話人(北海道大学)/参加者 180 名/オンデマンド配信あり]。
- ▶ 2024 ESTRO School を ESTRO と共催にて開催した[2024 年 6 月 21～23 日/オーガナイザ-松尾 幸憲会員/大阪 千里ライフ・サイエンスセンター/参加者 89 名]。
- ▶ 第 25 回放射線腫瘍学夏季セミナーを開催した [2024 年 8 月 3～4 日/岡嶋 馨世話人(近畿大学奈良病院)/奈良春日野国際フォーラム/参加者 414 名（有料 347 名）/オンデマンド配信あり]。
- ▶ 2023 年度優秀教育講演賞 2 名を選出した。また、2023 年度優秀教育発表奨励賞 9 名を選出した。
- ▶ 放射線治療の医師・メディカルスタッフ（診療放射線技師・医学物理士・看護師）を対象とする「第 2 回海外研修助成事業」を実施した（公募期間：2023 年 9 月 27 日～12 月 21 日、応募者なし）。また、2023 年 4 月より実施の医用原子力財団との共催・助成金を辞退し共催を終了した（今後は当会単独実施予定）。
- ▶ 教育講演のシラバスを当会ホームページ(会員専用ページ)に掲載した。（希望者には冊子体を配布）
- ▶ 今後の教育講演のシラバスの配布に関するアンケートを実施し、結果を元に今後の配布方法等について検討した。
- ▶ 先達のスライドアーカイブ事業として「Senior Doctor's Teaching File」ページの準備を行った。
- ▶ Teaching File system のサーバー移転に伴う改訂作業を行った。
- ▶ 初学者向け教科書「やさしくわかる放射線治学」の改定作業を行い、改訂第 2 版を発行した。

#### ■ QA 委員会（委員長：澁谷 景子）

- 「放射線治療における第三者機関による出力線量測定および評価に関するガイドライン 2023」を日本医学物理学会・日本放射線技術学会と協同で作成した。
- 第三者出力線量評価認定作業部会員の退任に伴い、作業部会員の推薦を行った。
- 第1回第三者出力線量評価認定制度認定施設(36施設)を学会ホームページへ掲載した。
- 第2回第三者出力線量評価認定制度認定施設申請の受付を行い、受付期間内（2023年12月1日～12月22日）に申請された8施設について、第三者出力線量評価認定作業部会にて審査をおこない、理事会審議を経て承認を得た。承認された認定施設8施設を学会ホームページへ掲載した。
- 第3回第三者出力線量評価認定制度認定施設申請の受付を行い、受付期間内（2024年6月3日～7月17日）に申請された18施設について、第三者出力線量評価認定作業部会にて審査をおこない、17施設を理事会へ答申し、承認された。
- 安全かつ効果的な治療を提供するために、国内外で利用されているガイドラインを集約した品質保証リストを立案した。
- 放射線治療品質管理機構が取りまとめている、放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制の構築に関する関連団体協議に参加し、教育コンテンツの企画・作成に協力した。

#### ■ ガイドライン委員会（委員長：井垣 浩）

- 「放射線治療計画ガイドライン 2024年版」の発行に向けてガイドライン改訂WG委員の一部を公募し、改訂作業および発行準備を行った。
- 特別予算による「放射線治療計画ガイドライン 2020」のモニタリング指標に関する調査研究のアンケートを集計し、その内容を会員専用ページに掲載した。
- 「放射線治療における第三者機関による出力線量測定および評価に関するガイドライン 2023」を査読した。
- 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン（第六版）」を査読した。
- 「強度変調放射線治療（IMRT）臨床的ガイドライン 2024」を査読した。
- 「患者さんと家族のための乳房再建ガイドブック」を査読した。
- 日本産科婦人科学会「子宮体癌取扱い規約臨床編第4版」編集委員として渡辺 未歩会員、戸板 孝文会員を推薦した。
- 日本アイソトープ協会「アルファ線源（Ra-224線源）による悪性腫瘍に対する小線源治療の適正使用の関する実施要綱」ワーキンググループ委員として井垣 浩会員を推薦した。
- Chinese Society of Clinical Oncology (CSCO)および Chinese Anti-Cancer Association (CACA) 「Delineation of Radiotherapy Target Volume of Nasopharyngeal Carcinoma: CSCO, CACA, CSCO and ASTRO Joint International Guideline」作成委員として古平 毅会員、安田 耕一会員を推薦した。
- 日本膀胱癌学会「膀胱癌診療ガイドライン 2025年版」作成委員として染谷 正則会員、大栗 隆行会員、篠藤 誠会員、梅澤 玲会員、稲葉 浩二会員、土屋 高旭会員を推薦した。

- 日本がん看護学会「急性放射線皮膚炎のケアに関する合同ガイドライン作成」評価委員として淡河 恵津世会員、中村 聡明会員を推薦した。
- 日本脳腫瘍学会「脳腫瘍診療ガイドライン」文献レビュー委員として今野 伸樹会員、小倉 健吾会員、相部 則博会員、久野 修会員、山品 将祥会員、佐藤 吉隆会員(髄芽腫グループより移動)を追加して推薦した。
- 日本癌治療学会「領域横断的癌取扱い規約第2版」改訂委員として原田 英幸会員を推薦した。
- 日本医学会連合「診療ガイドライン統括委員長会議」に参加して各学会の連携促進、ガイドライン間の重複や齟齬などの課題解決に向けた検討を行った。
- 日本癌治療学会「CANCER e-LEARNING」講義コンテンツの選定、監修を行った。
- ガイドラインの転載等の許諾申請の可否を検討した。
- 「顎骨壊死診療ガイドライン」について、当会が中心となり作成する準備を行ない、村上 直也 WG 長より、以下システマティックレビュー(SR)委員を推薦した。

【日本がん口腔支持療法学会】勝良 剛詞会員、松田 悠平先生(以上 GL 委員)、川下 由美子先生、瀬名 浩太郎先生、池浦 一裕先生、大西 淑美先生、梨 正典先生、山田 有佳先生、宮下 英高先生(以上 SR 委員)

【日本歯科放射線学会】三浦 雅彦会員、長谷川 安都会員(以上 GL 委員)、伊川 裕明会員、武者 篤会員、戒田 篤志会員、新垣 理宣会員、山村 佳子先生(以上 SR 会員)

【日本サポータティブケア学会】全田 貞幹会員、小西 哲仁先生(以上 GL 委員)、上野 尚雄先生、八岡 和歌子先生、富澤 建斗会員、竹内 照美先生、富塚 健先生、臼淵 公敏先生(以上 SR 委員)

【JASTRO】村上 直也会員、櫻町 円香会員(以上 GL 委員)、小杉 康夫会員、宮田 裕作会員、与芝 茜会員、春日 悠希会員(以上 SR 委員)

## ■ がん放射線治療推進委員会 (委員長：石川 仁)

- 医学生・研修医セミナー小委員会：医学生・研修医のための放射線治療オンラインセミナーを2024年5月18日にWeb開催し、42名が参加した。第42回、第43回医学生・研修医のための放射線治療セミナーを東京会場(2024年7月6日、エレクトラ株式会社トレーニングセンター、28名参加)、大阪会場(2024年7月26日、森ノ宮医療大学さくらポート、29名参加)で現地開催した。
- 脊椎 SBRT 小委員会：第1回脊椎 SBRT ハンズオンセミナーを2024年6月2日にバリアンメディカルシステムズ本社で開催し、10施設から20名が参加した。また、その内容を JASTRO ホームページで動画配信した(2024年9月1日~2026年8月31日予定)。
- がんプロ養成プラン小委員会：第4期がんプロに関連した放射線治療医養成に関するアンケートを実施中。
- 医学部における放射線治療教育小委員会：医学部での放射線治療用の講義用資料として「放射線治療学・基礎編」を作成した。教育委員会で内容をブラッシュアップ後に JASTRO ホームページに掲載予定。
- 少数常勤放射線治療医サポート小委員会：放射線治療医が患者の治療に関する相談ができる窓口を設営する事業を企画し、理事会で承認され、来年度にむけてホームページ改修、および回答者の応募を実施予定。アンケート結果を Newsletter (2024年 No. 2)に掲載した。

- 放射線治療の需要予測小委員会：厚労科研大西班と共同して、放射線治療医、治療施設の「適正配置」に関して検討中。
- RI 内用療法小委員会：第 5 回放射性同位元素内用療法セミナーを 2024 年 3 月 9 日に名古屋大学医学部保健学科で開催し、75 名（JASTRO 会員 28 名、非会員 47 名）が参加した。広報委員会と共同で Journal Club に核医学治療に関する論文に関する紹介を 2024 年 6 月から開始した（No. 278 で掲載済み）。
- 男女共同参画・働き方改革小委員会：2022 年のアンケート結果を Newsletter（2024 年 No. 1）で報告した。学会員からの意見収集する「目安箱」を設置した。新たなアンケートを実施し、今回の学術大会にて報告予定。
- その他：民間医局レジナビのメール配信サービスを用いて広報活動を行った。

#### ■ 放射線治療専門医制度委員会（委員長：古平 毅）

- 放射線治療専門医制度委員会（日本医学放射線学会と共同）を 6 回（2024 年 2 月 16 日 筆記試験問題作成ガイダンス（web 会議）、2024 年 4 月 14 日 前年度問題の確認と試験問題作成のガイダンス（横浜）、2024 年 5 月 11 日・31 日 試験問題ブラッシュアップ会議（東京）、2024 年 8 月 23 日・24 日 専門医試験実施と合否判定会議（神戸）、併せて委員会メール審議を適宜開催して、放射線治療専門医に関連する協議、報告、第 1 回日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験問題（筆記問題と口頭試験）の作成、そのブラッシュアップ、受験資格の審査、他（専門医更新審査の確認等）を行った。今般より開始した日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験実施に対する準備を検討し JRS 放射線科専門医制度委員会、JRS 放射線専門医試験実施委員会との連携により対応した。
- 第 1 回日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験を神戸ポートピアホテルにて 2024 年 8 月 23-24 日に実施した（応募者 48 名、受験者 47 名）。第 1 回日本専門医機構認定放射線治療専門医認定試験受験者 47 名中の 45 名（95.7%）を合格とし機構に報告、放射線治療専門医更新（182 名）、猶予（13 名）、資格辞退（7 名）を認定した。
- 放射線科サブスペシャリティ領域放射線治療専門医検討委員会規約改訂を JRS 放射線専門医制度委員会と連携し行った。
- 日本専門医機構認定 放射線治療専門医資格更新基準案 および、日本専門医機構認定放射線治療専門医認定に関する整備基準案（2024 年第 1 版）を、JRS 放射線科専門医制度委員会と連携して策定し、策定へ向けた準備を進めた。
- 専門医機構サブスペシャリティ連絡協議会に参加し、運用に関する情報収集を行い必要な対応について検討した。
- 各基幹施設から 2022 年に提出された日本専門医機構認定放射線治療領域専門研修カリキュラム・プログラムの統括責任者変更および、連携施設の追加等について、確認した。
- 第 37 回 JASTRO 学術大会に関しては、講習会「医療の質：治療」（放射線治療専門医（学会認定）の更新資格の必須講習）と、講習会「医療安全・放射線防護」、「医療倫理」（放射線治療専門医・診断専門医（学会認定）の更新資格の必須講習と専門医機構共通講習（必修講習）との単位併用可）の講師候補を選出して、JRS 教育委員会に推薦、「指導者講習会」の講師と座長を、JRS 放射線科専門医制度委員



会に推薦した。第 84 回日本医学放射線学会総会に関しては、講習会「医療の質：治療」の講師候補を JRS 教育委員会に推薦した。

- がん医療エキスパート育成事業運営会議（日本癌治療学会）に伊藤 芳紀会員を推薦した。
- 日本がん治療認定医機構関連学会委員会に参加した。

#### ■ データベース委員会（委員長：中村 和正）

##### ➤ 構造調査

2021 年分の構造調査の集計を行い、報告書（速報）の公開を行った。

※次期構造調査は以下の日程で行う。

[次期事業：構造調査(2023 年分)2024 年 9 月 30 日～11 月 30 日]

##### ➤ 症例登録（JROD）

2023 年度調査報告書（2022 年分）を作成した。

※次期症例登録は以下の日程で行う。

[次期事業：症例登録(2023 年分)2024 年 9 月 30 日～11 月 30 日]

##### ➤ QST（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構）との共同研究契約

昨年と同様、JROD・構造調査 研究事務局部分のみ共同研究として進めたが、2024 年 3 月末にて本共同研究契約を解除、その後 8 月末までは引継ぎ業務を含む業務委託を実施した。

##### ➤ 放射線治療コードワーキング（WG）

健保委員会と協同し WG を設置、放射線治療コードについて検討を行った。

##### ➤ 医療情報標準化推進協議会

協議会に DB 委員会より参加した。

##### ➤ RI 内用療法症例データベース検討小委員会（WG）

がん放射線治療推進委員会と協同し、WG を設置、RI 内用療法症例実態把握のための症例データベースの構築を行った。

##### ➤ 構造調査のデータ利用申請の審査（6 件）を行った。

##### ➤ JROD のデータの利用規定について検討し、学会ホームページへ掲載した。

#### ■ 医療安全委員会（委員長：小川 和彦）

##### ➤ AAPT TG REPORT275 和訳本について、第 36 回学術大会にて希望者へ配布し、学会ホームページへ掲載した。

##### ➤ 日本被ばく研究情報ネットワーク (J-RIME) 診断参考レベル (DRL) ワーキンググループの委員として引き続き参加した。

##### ➤ 「放射線治療における品質保証および医療安全の QI を用いた WEB 解析システム」による「がん診療連携拠点病院を対象とした 2020～2021 年度調査報告書」を学会ホームページへ掲載した。

#### ■ 学術委員会（委員長：村上 祐司）

##### ➤ 2024・2025 年度研究課題を募集し、応募のあった 18 課題（基礎 8 課題・臨床 10 課題）を評価し、評価の高かった 4 課題（基礎 1 課題・臨床 3 課題）を理事会へ推薦した。

- 2022・2023 年度研究課題（2 課題）の中間評価（会計報告を含む）を行い、理事会に報告した。
- 2021・2022 年度研究課題（2 課題）の最終評価を行い、理事会へ上申し承認後、研究代表者に通知した。
- 研究助成金細則の変更：応募課題数の増加に対応するため、採択課題数を最大3 題から最大3~4 題に変更した。細則の変更に基づき、応募要項の変更を行った。
- 会員等を対象としたアンケート調査を伴う調査研究実施にかかる内規に従い、課題研究に関する JASTRO 会員を対象とした以下のアンケート調査2 件について精査・審議し、実施に問題なしと判断した。
  - ①放射線治療情報の相互利作用に向けた輪郭名称の命名標準化に関するアンケート
  - ②体表面画像誘導放射線治療（SGRT）の国内適正利用に資する研究（実態調査）

#### ■ 賞等推薦委員会（委員長：有賀 久哲）

- 2024 年梅垣賞・阿部賞の審査を行い、該当者（計3 名）を理事会に推薦し、決定した。
- 2024 年ゴールドメダルの該当者（1 名）を理事会に推薦し、決定した。
- 2024 年特別感謝状・感謝状の該当者（各1 名）を理事会に推薦し、決定した。
- 2024 年名誉会員の該当者（計7 名）を理事会に推決定し、社員総会に推挙した。
- 2024 年地域貢献賞の審査を行い、該当者（2 名）を理事会に推薦し、決定した。
- 関連団体からの顕彰事業に関して、募集周知を行った。  
2024 年度安田記念医学財団 安田医学賞/2024 年度「日本対がん協会賞」「朝日がん大賞」/令和7 年度科学技術分野 文部科学大臣表彰

#### ■ 国際委員会（委員長：青山 英史）

- ASTRO との MOU を締結した（2023 年 11 月）
- アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）2024~2025 年新役員について以下、推薦・承認された。  
Secretary General: 永田 靖会員  
Council member : 宇野 隆理事長、青山 英史理事（新）  
Education committee member : 内田 伸恵理事、川村 麻里子会員  
Research committee member: 村上 祐司理事（新）、青山 英史理事、打浪 雄介会員  
Scientific committee member: 大野 達也理事、久保 亘輝会員  
Leadership development program committee member: 松尾 幸憲会員（新）、中村 聡明会員
- Asian Oncology Society（AOS）2026 年日本大会への共催依頼があり、会議等への代表者参加、プログラム委員、演題登録への協力を行う旨決定した。
- The 6th FARO&KOSRO 2023（2023 年 10 月 11 日~13 日, Seoul, Korea）において、日中韓 Trilateral symposium を開催（11 月 13 日）。テーマ: AI in Radiation Therapy, Speaker/Chair from JASTRO: Daisuke Kawahara (Hiroshima Univ)/Hidefumi Aoyama (Hokkaido Univ)。
- ESTRO National Societies Survey に JASTRO の情報提供を行った（2024 年 4 月）
- ESTRO2024（2024 年 5 月 3~7 日, Glasgow, UK）に代表を派遣し、JASTRO 展示ブースを設置。
- 第 9 回日本-台湾放射線腫瘍学シンポジウム（2024 年 8 月 17~18 日: 札幌市, 大会長 青山英史）を開催した。【参加者: 日本 81、台湾 41、英国 1 名、米国 1 名、併設シンポジウムからの参加 22 名、計 150 名（内 Web 8 名）】。第 10 回は 2025 年 8 月 30 日に高雄市で開催予定。

- 第3回 Joint FARO-ESTRO Congress @ ESTRO meets Asia 2024 (2024年8月23~25日 Kuala Lumpur, Malaysia)に代表を派遣し、JASTRO 展示ブースを設置した。2025年度は第7回 FARO (2025年10月9~11日, Chiang Mai, Thailand) 開催予定。
- 第1回 JASTRO-ASTRO シンポジウムの準備を行った。ASTRO 2024 期間中に開催予定。
  - ・ Session Title: ASTRO/JASTRO Joint Session: Advances in Liver Cancer Radiation Therapy (2024/9/30, Washington DC, US), Speaker/Moderator: JASTRO: Tomoki Kimura (Kochi Univ), Masashi Mizumoto (Univ Tsukuba), Hidefumi Aoyama (Hokkaido Univ), ASTRO: Jennifer Y. Wo (MGH, Harvard), Laura Ann Dawson (Univ. Toronto).
  - ・ 第2回は JASTRO 学術大会 (大会長 櫻井 英幸理事) 内での開催となる。
- 2024 日中韓 Trilateral Symposium (2024年11月15日, Beijing, China) の準備を行った。
  - ・ The Role of Radiation Therapy in Oligometastasis. Speaker/Moderator from JASTRO: Ikuno Nishibuchi (Hiroshima Univ), Hidefumi Aoyama (Hokkaido Univ)。
  - ・ 次年度は JASTRO 主催 (大会長 櫻井 英幸理事)
- The ESTRO-JASTRO Symposium 2024 (2024年11月21~23日, 横浜, 第37回 JASTRO 学術大会内・大会長 大西洋理事) の開催準備を行った。
  - ・ Session Title: Radioablation of ventricular tachycardia: From Basics to Clinical Practice and Future Challenges. Chair: Ben Slotman (Amsterdam Univ), Hidefumi Aoyama (Hokkaido Univ), Speaker: Morio Shoda (Dept Cardiology, Tokyo Women's Hosp), Cvek Jakub (Univ Ostrava, Czech Republic), Martin Fast (Netherland), Mari Amino (Dept Cardiology, Tokai Univ), Mariko Kawamura (Nagoya Univ)。
  - ・ 次年度は ESTRO2025 内で開催 (2025年5月2~6日, Vienna, Austria)

#### ■ 用語委員会 (委員長: 有賀 久哲)

- 「用語集・略語集」の掲載用語の表記修正、新規用語の追加などについて、投稿サイトを用いた意見公募を行った。
- 「用語集・略語集」に対する会員からの要望 (用語統一、掲載内容など) について対応を検討した。
- 2023 年度日本医学会分科会用語委員会に出席し、医学用語辞典の改訂、遺伝学用語・不適切用語等について審議した。

#### ■ 粒子線治療委員会 (委員長: 櫻井 英幸)

- 2023年12月1日、2024年4月13日に粒子線治療部会と合同で粒子線治療委員会を開催した
- 部会に臓器別ワーキンググループをつくり、臨床研究を推進した。

#### ■ 医学物理士委員会 (委員長: 大野 達也)

- 厚労科研「放射線療法の提供体制に資する研究 (研究代表者: 大西理事)」における、「物理技術専門職に関する体制」の進捗を共有し、引き続きに委員会として協力することに合意した。
- 放射線治療品質管理機構が取りまとめている放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制の構築に関する関連団体協議に参加し、教育コンテンツの企画・作成に協力した。

- 医学物理士認定機構が主催する「医学物理士の今後のあり方に関する関連団体の意見交換会」に参加し、関連 8 団体（日本医学放射線学会、日本医学物理学会、日本放射線技術学会、日本医学物理士会、日本診療放射線技師会、放射線治療品質管理機構、日本放射線治療専門放射線技師認定機構、医学物理士認定機構）と意見交換を行った。

#### ■ 健保委員会（委員長：大西 洋）

- 令和 6 年度（2024 年）診療報酬改定に関わる諸作業を行い、医療技術提案書を提出した。また改訂内容について、会員向け解説をニュースレター（2024 年 6 月：152 号）に掲載した。
- 令和 8 年度（2026 年）診療報酬改定に関わる諸作業を開始した。
- 診療報酬改定に関連した調査、内保連との連携、対政府との交渉を行った。
- 会員からの健保に関する質問事項に回答した。
- 「強度変調放射線治療（IMRT）臨床的ガイドライン 2024」を日本医学放射線学会および高精度部会と協働し、改訂した。
- 放射線治療コードワーキンググループは、放射線治療コードの策定に向け、作業を推し進めた。
- 特定資金事業「放射線治療費用対効果分析事業」を推進した。（2025 年度まで 2 年延長）
- 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制に資する研究」（研究代表者；大西 洋会員/第 2 期 2023～2025 年）における「放射線治療計画支援者：物理技術専門職に関する体制」について、医学物理士委員会・QA 委員会に協力を依頼し連携して進めた。  
[本厚労科研は、強度変調放射線治療、定位放射線治療、粒子線治療、ホウ素中性子補足療法、密封小線源治療、核医学治療等について、あるべき提供体制について検討作業を進めている。]

#### ■ 渉外・関連学会委員会（委員長：佐々木 良平）

- 第 36 回 JASTRO 学術大会の発表演題の中から、他領域関連学会の発表候補者（助成対象者）23 名を選出した。また、発表者（計 7 名）に補助を行った。
- 「他領域関連学会発表助成事業：内規」について、助成の対象は筆頭演者のみとする旨を追記した改訂案を規約委員会と共に理事会へ提案し、承認された。
- 第 64 回日本核医学会学術総会（2024 年 11 月 7～9 日）より、5 学会（JASTRO・日本核医学会・日本核医学技術学会・日本心臓核医学会・日本不整脈学会）ジョイントセッション「重症不整脈に対する放射線治療」の共催依頼があり、当会より演者等（座長案：中村 和正会員/演者；国枝 悦夫会員、若月優会員他）推薦を行った。
- 日本放射線影響学会との MOU に基づき、第 36 回 JASTRO 学術大会（2023 年 12 月 1 日）において合同シンポジウムを行った。また日本影響学会第 67 回学術大会（2024 年 9 月 25～28 日）における合同シンポジウムの当会側オーガナイザー（大栗 隆行会員）、座長（塩山 善之会員）、演者（皆巳 和賢会員、吉田 由香里会員、松延 亮会員、松本 孔貴会員）の推薦を行った。
- 依頼により、第 22 回（2025 年）日本臨床腫瘍学会における合同シンポジウムの当会側オーガナイザー（生島 仁史監事）を推薦した。
- 「JASTRO 共催・協賛・後援等の依頼等に関する取扱規程」に基づき、各関連学会・団体よりの後援・協賛・共催を 11 件審議し、理事会へ報告、上申した。

## ■ 施設認定委員会（委員長：小川 和彦）

- 2023年第8回 JASTRO 施設認定申請の66施設（更新：54施設、新規：12施設）について審査および合否判定を行った。
- 新規認定施設をホームページに追加掲載した。
- 認定施設規程を満たさない施設についての審議・対応を行った。
- 認定施設の外部及び病院経営者へのPRについて検討を行った。
- 2024年第9回 JASTRO 認定施設の新規申請（10施設）ならびに更新申請（49施設）の受付を行った。
- 認定施設規程において学術大会・部会での筆頭に加えて共同発表者でも認めること、また機構認定単位が認められた学会等での筆頭発表を含める改定案を理事会へ上申し、承認された。

## ■ 緩和的放射線治療委員会（委員長：高橋 健夫）

- 第36回 JASTRO 学術大会（2024年11月30日～12月2日）において JASTRO と日本緩和医療学会による合同シンポジウム「ちょっとした工夫で状況は変えられる 緩和照射への紹介活性化のための取り組み」および厚生労働省科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん治療における緩和的放射線治療の評価と普及啓発のための研究」（研究代表者：茂松 直之会員）に関するシンポジウムにて発表を行った。
- 第37回 JASTRO 学術大会における緩和的放射線治療に関するシンポジウム「緩和的放射線治療最前線」の発表準備を行った。
- 第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会（2024年6月14～15日）において、JASTRO/日本緩和医療学会/日本サイコオンコロジー学会合同シンポジウム「骨転移以外の緩和ケア・緩和的放射線治療～骨メタだけじゃない。骨転移以外の緩和的放射線治療～」にて発表を行った。また同学術大会において「緩和的放射線療法普及のために地域連携・院内連携の成功事例から学ぶ」の発表を行った。
- 緩和ケア関連団体会議（2023年12月12日・2024年7月31日 Web会議）に出席し、緩和ケアに関する情報共有を行った。
- 厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制構築に資する研究」（研究代表者：大西会員/研究分担者：高橋会員）に本委員会として引き続き研究を支援した。
- 厚生労働省科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究」（研究代表者：里見 絵理子氏/研究分担者：高橋会員）について「専門的がん疼痛治療の地域医療連携体制構築に関する研究・放射線治療」の研究を支援した。
- 厚労科研 里見班・大西班とともに緩和的放射線治療の診療連携において具体的に参考となるモデルや好事例をまとめた緩和的放射線治療好事例集を作成し、学会ホームページへ掲載準備を行った。
- 緩和的放射線治療に関する診療ガイドライン作成の準備を進めた。
- 胃がん患者の商用レセプタデータを用いて、出血性胃がんに対する緩和的放射線治療について医療経済評価研究を進めた。
- 骨転移に対する緩和的放射線治療の医療経済評価についての研究を進めた。

## 【管理部門】

### ■ 倫理委員会(委員長:高橋 健夫)

- 役員等の利益相反自己申告書の審査を行い、問題のない事を確認した。
- COI 管理のオンライン化について検討を行った。
- JASTRO 学術大会の演題応募に関する倫理規定の改定に向けて検討を進めた。

### ■ 規約委員会(委員長:大野 達也)

- 理事定数の定款細則変更について審議し、理事会へ答申、承認がなされた。
- 代議員数増員に伴う定款の改訂について審議し、理事会へ答申、承認がなされた。
- JRR 誌優秀論文賞の内規の改定について審議し、理事会へ答申、承認がなされた。

### ■ 財務・総務委員会(委員長:溝脇 尚志)

- 会員の入会動向・審査の取りまとめを行った。
- 今年度(2023 年度)の予算に基づき、各事業等の 2023 年度会計を執行し、(委員長による支払いの確認・チェック実施含む)2023 年度決算案の準備をおこなった。
- 次年度(2024 年度)新予算・事業案について、各委員会・部会よりの当委員会予備審査(6 案件)を実施し、理事会へ上申した。その他の 2024 年度各委員会・部会よりの一般予算案を取りまとめ、事業計画案と共に理事会へ上申した。(理事会承認案を 8 月末内閣府に申請)
- 特定費用準備資金の計画変更案を、理事長を補佐し、担当理事と共に作成した。
- 2019 年より開始した「JASTRO 総合補償(団体保険)」の継続について、加入者が現在までに団体割引適用数まで達していないため、次年度(2024 年 10 月)募集を停止、団体保険を中止する案を理事会に上申。現加入者への他団体保険等へ移行事務手続きを案内した。
- 現「出張旅費規程」における「宿泊費支給上限額」について、物価高騰により「国内:役員・各種委員会委員 1.5 万円→2 万円」、「海外:2 万円→4 万円程度」等とする改訂案を理事会へ上申し、改訂が承認された。
- 代議員提案事項の募集を行った。
- データ利用申請(8 件)の総合審査を行った。
- 各団体(品質管理機構等)や会員からの要望(核医学治療の早期国内導入・環境整備への要望、MR リニアック停止メーカーの部品供給不足等)・質問に対する回答・対策を検討した。

### ■ 将来計画委員会(委員長:宇野 隆)

- 昨年度「代議員選挙制度関連見直しWG」にて検討した代議員のダイバーシティ枠設置案等に基づき、代議員増員に伴う定款 14 条第 1 項、代議員の被選挙権・選挙権の確定日変更(3 月 31 日→3 月 1 日)に伴う定款 15 条第 3 項の変更案を作成し、規約委員会へ提出。最終案を理事会へ上申後、社員総会に提案し承認された。更に、この代議員数増員に伴う定款細則について、ダイバーシティ枠(女性枠と物理・技術枠)の設置や選出方法等の詳細を記載した案を作成し、規約委員会へ提出。「ダイバーシティ枠の定数・、最低得票数は選挙ごとに理事会が定める」に基づき、2024・2025 年度代議員選挙のダイバーシティ枠定数は、女性枠 20 名、物理・技術枠 5 名、最低得票数は各 5 票とすることを理事会に上申し承認された。また、現定款の範囲内で、現状の「最大理事数 18 名を 20 名以内に増員」、現細則の「代議員の投票によって選出する理事を

15名から17名に変更」する案を提案し、理事会にて承認がなされた。

- 厚労省「第90回がん対策推進協議会」(8月5日)へ委員として、委員長(理事長)が参加した。
- AI-研究推進ワーキンググループ(WG長:村上 祐司委員)では、データベース Web システム構築事業について、選定した委託会社と契約締結し、データベース WEB システム作成を開始、都度システム更新作業を行った。データ登録およびシステム評価のための研究について広島大学にて本研究の一括審査申請を行い承認された。

## 【部 会】

### ■ 小線源治療部会 (担当理事/部会長:大野 達也)

- 小線源治療部会会員数:631名。
- 小線源治療部会第26回学術大会を開催した[2024年5月24~25日/大野 達也大会長/Gメッセ群馬/参加者:310名(有料284名、研修医・学生2名、招待・関係者24名)]。
- 第2回小線源治療ハンズオンセミナーを開催した[2023年10月14日/村上 直也世話人/順天堂医院/参加者:29名]。
- JASTRO ニュースレター (NL) 小線源コーナーへの寄稿に協力した。
- 「検定書からの乖離した RALS 用高線量密封小線源線源に関する報告と注意喚起」を理事会に上申し、会員へ周知する旨決定した。(NL、JASTRO-gram で周知)
- ホームページの「全国小線源治療施設と小線源治療内容の一覧」の Open Street Map を更新した。
- 厚生労働科学研究費補助金研究(がん対策推進総合研究事業)「放射線療法の提供体制構築に資する研究」において、研究項目「小線源治療提供体制の現状と課題」を担当した。
- 小線源治療部会賞を制定し規約を定めた。
- 「密封小線源治療における医療機器安全管理料 2 運用指針 2024」を作成した。

### ■ 生物部会 (担当理事:石川 仁 /部会長:原田 浩)

- 生物部会会員数:519名
- 第61回生物部会学術大会・第52回放射線による制癌シンポジウムを開催した[2024年5月17~18日/高橋 昭久世話人(群馬大学)/群馬会館/参加者112名]。
- 第14回放射線生物学セミナーを、教育委員会との共催にて、ハイブリット開催した[2024年3月16日/テーマ:がん微小環境と放射線治療/稲波 修世話人(北海道大学)/北海道大学大学院獣医学研究 院 大講堂/参加者162名(有料123名、無料39名)/後日オンデマンド配信あり]。
- 各ワーキンググループ(①放射線生物学セミナーWG ②学術WG ③広報WG ④トランスレーショナルリサーチ推進WG)において、活動を行った。[主な活動①上記参照。②Journal Clubにて、臨床に関連した放射線生物学的トピックスを扱った論文を2ヶ月に1回紹介し、紹介原稿のガイドラインを作成した。「増殖死と分裂死の定義に関する提言書」を作成し、News Letter 152号にて会員へ周知するとともに、放射線生物研究誌(第59巻第2号)にて報告した。③関連学会の紹介を中心に放射線生物学研究の面白み、研究哲学等 News Letterにて紹介した。④「放射線治療に対する Exceptional response を規定する分子遺伝学特徴を明らかにする他施設共同研究」は10施設からの症例登録を終了し、ゲノ

ム解析を進めた。JCOG2108「非小細胞肺癌術後限定個数再発に対する全身治療＋局所治療の有効性を検証するためのランダム化第 III 相試験」の附随研究として、臨床的な主要評価項目および副次評価項目を補完するバイオマーカーとして血 ctDNA ゲノム解析の臨床的有用性および意義を検討する研究を立案した。

- ICRP 国際シンポジウムサテライトイベント（2023 年 11 月 6 日・東京）への後援協力を行った。

#### ■ 高精度放射線外部照射部会（担当理事/部会長：大西 洋）

- 高精度部会会員数：797 名。
- 第 37 回学術大会を開催した[2024 年 3 月 2 日/宇野 隆世話人（千葉大学大学院医学研究院 画像診断・放射線腫瘍学）/東京コンベンションホール/参加者：720 名]。
- 「強度変調放射線治療（IMRT）臨床的ガイドライン 2024」を日本医学放射線学会および健保委員会と協働し、改訂した。
- IMRT/SBRT 実態調査アンケートを実施し、結果を公表した。（2024 年 4 月 学会ホームページ）
- 部会の分科会として、第 3 回日本 MR 画像誘導適応放射線治療研究会を開催した [2024 年 7 月 6 日/澁谷 景子世話人（大阪公立大学）/あべのハルカス/参加者 106 名]。
- 第 38 回学術大会を開催することを決定した[2025 年 5 月 24～25 日（札幌）/青山 英史世話人]。

#### ■ 粒子線治療部会（担当理事/部会長：櫻井 英幸）

- 2024 年 12 月 1 日、2024 年 4 月 13 日に粒子線治療委員会と合同で粒子線治療部会開催した。
- 2023 年 9 月 4 日、2024 年 8 月 2 日に臓器別ワーキンググループリーダー会議を開催した。
- 部会の臓器別ワーキンググループにおいて、臨床研究を推進した。診療報酬改定のための提出資料を作成し厚労省に提出し、2024 年 1 月 11 日の先進医療会議で議論された。
- 粒子線治療に関する医療評価技術提案書の作成を行った。
- 先進医療の実施状況の報告のため定期報告書を作成した。  
先進医療会議からの質問に対して厚労省の担当者と打ち合わせを行い、回答書を作成・提出した。
- 先進医療会議資料(エビデンス・評価解析)を厚労省へ提出し、2024 年 6 月の診療報酬改定で保険適用となった疾患等を整理した疾患別統一治療方針の学会ホームページ更新を行った。
- 一般・患者さん向け書籍「粒子線治療がしっかりわかる本」を広報委員会とともに作成し出版した。